

平成 21 年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立槻木中学校

1 評価期間 平成 21 年 12 月～平成 22 年 2 月

2 学校関係者評価委員 10 名

3 評価規準

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ○妥当である。 | (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である) |
| ○妥当でない。 | (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。) |
| ○判断することができない。 | |

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点、B：良い・・・5点、C：課題がある・・・-5点、D：かなり課題がある・・・-10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

	自己評価	関係者評価
(1) 学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	5.8	妥当である
(2) 学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	6.0	妥当である
(3) 保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	3.5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見
(1) 前年度の学校評価をもとに、『槻木中学校マニフェスト』を作成し保護者・地域住民に公表した。次年度も継続していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアについては飽くまでも学校側が主導権を持つこと。 ・運動部のみではなく芸術分や、科学分野などに秀でた人の活動もあればよいと思われる。 	
(2) 学校だよりや学年・学級通信を通して学校の様子を知らせるとともに、『マニフェスト白書』を作成し実践内容を公開した。また、授業参観・講演会・学校行事など保護者の参加する機会を増やした。今後も保護者の参加する機会を増やしていきたい。		
(3) 職場体験では地域の方々の協力をいただき、生徒達の意識の高まりをみる事ができた。今後は『学校支援ボランティア』など、地域の教育力を活用し生かしていく手立てを図っていきたい。		

2. 「学力向上」と新学習指導要領の趣旨の徹底

	自己評価	関係者評価
(4) 「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	4.5	妥当である
(5) 学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	4.5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見

(4) 数学と英語でTTや少人数指導を実践してきた。次年度は、学力向上サポートプログラムを活用し基礎学力の定着と指導力の向上を図ってきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力（かけ算・わり算・分数の計算）の定着を目指し、小学校の段階から指導に当たるなど学校踏み込みがみられる。（百ます計算など）また、英語についてもTTや少人数指導の実践など学校側の取り組みが十分にうかがえる。次年度への成果が楽しみでもある。（秋田に負けないように）
(5) 「ノーテレビワーク」の実施を呼びかけ、家庭への啓蒙に努めてきた。次年度も、小学校と連携するとともに家庭との連携を深め「家庭学習」の充実を図ってきたい。	

3. 豊かな人間性を育む道徳教育の充実

		自己評価	関係者評価
(6)	「道徳の時間」の実実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲の向上に努めている。	4. 5	妥当でない (もっとよい評価が出てよいと思われる。)
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(6)	年間指導計画にとらわれず、学年・学級の実態に応じた資料を活用し指導にも力を入れてきた。今後も指導方法の工夫・改善と時数の確保に継続的に取り組みたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内のできごと、生徒たちの言動などの生きた教材をもとに授業実施、生徒の心に訴える指導を行い、成果を挙げていることに敬服させられる。 ・あいさつの徹底をお願いしたい。 	

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

		自己評価	関係者評価
(7)	「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	5. 8	妥当である
(8)	児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	5. 5	妥当である
(9)	児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実を努めている。	3. 8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(7)	生徒の実態を踏まえ別室登校や不登校傾向の生徒に対して、情報交換を密にするとともに連携をとりながら指導にあたってきた。不登校、別室登校ゼロを目指して頑張りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・(7)の評価は、不登校生との減少にみられ、先生方の努力が伺える。 ・(9)の評価が上がるようになれば、生徒の変容はさらに向上するものと思われる。次年度の評価に期待したい。 	
(8)	基本的な生活習慣の育成の重要性をなお啓蒙してきたい。		
(9)	学活や総合的な学習の時間では、職場体験や上級学校調べなど、将来を見据えた上での進路指導を一層進めていきたい。生徒の能力や適性に気づかせるためにも、様々な体験活動に取り組みせたい。		

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		自己評価	関係者評価
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	4. 5	妥当である
(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している。	4. 0	妥当である
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	5. 0	妥当である
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	4. 0	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
(10) 1年生で「交通安全教室」、2年生で「携帯安全教室」、「救命救急法」、3年生で「薬物乱用防止教室」を実施し安全に対する意識を高めてきた。次年度も継続して実施するとともに、生徒だけではなく保護者にも啓蒙を図っていききたい。	・部活動など顧問がつけられない時などがあり十分な指導ができなかったこともあったとのこと。勝利至上には問題はありますが、勝つことも変容の基になることも確かである。部活動を通して克己心などの育成に・・・
(11) 避難訓練・防災訓練では新型インフルエンザの影響で十分な訓練ができなかった。次年度は、実施内容を工夫して実施したい。	
(12) 登下校時は、地域のボランティアの支援方々やPTAによる校外巡視活動など協力をいただき安全確保に努めている。今後も継続してお願いしていききたい。	
(13) 部活動を通して生徒の心と体を育てるとともに、「勝利至上主義」に陥ることがないように、心掛けていききたい。	

6. 特別支援教育の充実

	自己評価	関係者評価
(14) 「特別支援コーディネーター」を中心に、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導を行っている。	4.8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(14) 生徒一人一人のニーズに応じると教師側の負担が増加し特別支援教育が必要な生徒に対する指導が難しかった。コーディネーターを中心に連携を深め、よりよい指導の在り方を探っていききたい。	・普通学級にも在籍している生徒もいる。その生徒への十分な指導があれば理想である。	

7. 国際理解教育の促進

	自己評価	関係者評価
(15) 自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	4.8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(15) ALTの有効活用を図り、国際理解教育の推進に努めていききたい。		

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

	自己評価	関係者評価
(16) 高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	4.5	妥当である
(17) 学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	5.8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(16) コンピュータの活用は、主に技術科・総合的な学習の時間等が多く見られた。今後は、他の教科においても情報活用能力の育成を念頭に置いた指導を心掛けていききたい。また、今年度設置された「電子黒板」の効果的な活用を図っていききたい。	・図書館の整備に伴い生徒の読書量も増加しつつあるとのこと。今後に期待する。(朝の10分間読書が基) ・電子黒板の利用に期待する。	
(17) 図書室の整備が行われ図書委員会の活動が活発になり活用の頻度が高くなってきた。今後も、図書室の利用の充実に努めていききたい。		

9. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

	自己評価	関係者評価
(18) 教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	4.3	妥当でない (厳しい評価である)

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
(18) 授業研究を中心に据えて取り組み、指導力向上を踏ってきた。次年度は、学力向上サポートプログラムを核とした校内研究を行い、学力の向上を目指していきたい。	・反省が次年度に生かされることを期待する。

10. その他

	自己評価	関係者評価
(19) 子供たちと一緒に話をしたり、遊んだり、教育相談をするなどの機会を多くつくっている。	3. 8	妥当でない (もっと高い評価があってもよいと思われる)
(20) 子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。	4. 8	妥当でない (もっと高い評価があってもよいと思われる)

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
(19) 校務が多忙化し、生徒とともに過ごす時間が充分にとれなかったと考えている教員が多い。校務のスリム化し限られた時間を有効に使っていく工夫をしていきたい。	・(19)の低い評価に時間のとれない先生方のジレンマが伺える。
(20) 生徒は学校へ来ることを楽しみにしている生徒の割合は多いが、そうでない生徒もみられる。生徒にとって安心して過ごすことができる学校づくりに努めていきたい。	

11. 教育目標について

	自己評価	関係者評価
(21) 教育目標「心ゆたかで、たくましく、生き生きと学ぶ生徒の育成」が、学校の教育活動において具現化されている。	4. 8	妥当でない (もっと高い評価があってもよいと思われる)

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
(21) 教育目標を具現化するために「槻木中学校マニフェスト」を作成し年間計画に従って教育活動を推進してきた。次年度も継続して取り組み教育目標の具現化に努めていきたい。	・学校側の努力に期待する。 ・次年度が楽しみである。

◆その他:学校関係者による主な意見

- ・教育目標の具現化に全教員がこぞって歩みを進めていることが、生徒の学習態度や生活の様子からうかがえる。指導の成果が随所にみられた。
- ・自己評価は少し厳しいのでは？